

令和6年度 教科研修会 I 技術・家庭科 授業の様子

題 材 名	Fuzoku ベジタブルファームから家族に野菜を届けよう		
授 業 学 級	1年D組 (40名)	授 業 者	堀内 直人
教 科 の 学 び	B生物育成の技術、ユーザー（家族）のニーズを調査、最適解を求める		

【本時の様子】

生徒たちは、家族の願うリーフレタスを6月に育てるためには三つの栽培方法からどの栽培方法を選択すればよいのか、世の中の生物育成の技術から見出した「安定供給」「生産効率」「管理」「コスト」の四つの視点の比重を基に検討しました。

家族の願うリーフレタスが「見栄えがよく、虫がついていない」である生徒は、品質が安定することを「安定供給」と捉え、安定供給を重視して考えました。また、家族から「野菜の品質がよければ販売価格は安くなくてもよい」と聞いたことから、「コスト」はそれほど重視しなくてもよいのではないかと考えました。その結果、コストは高くなるが、室内のため虫がつかず、天候に左右されにくい人工光型水耕栽培を選択しました。

また、太陽光型水耕栽培を選択した生徒は、学校内のどの場所に容器を設置するか検討する際には「日光の当たり方」に着目し、隣の建物や樹木に日光が遮られやすい1階の技術室よりも、2階の教室の窓際に置いた方が日光が当たりやすいと考えました。

今後は、立案した栽培方法を基にリーフレタスを栽培していきます。果たして、家族の願うリーフレタスを立派に育て、家族に届けることができるのでしょうか！？



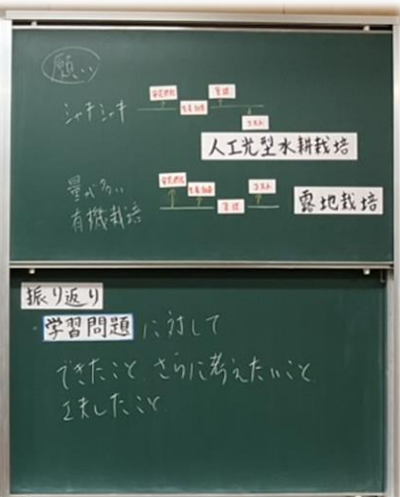
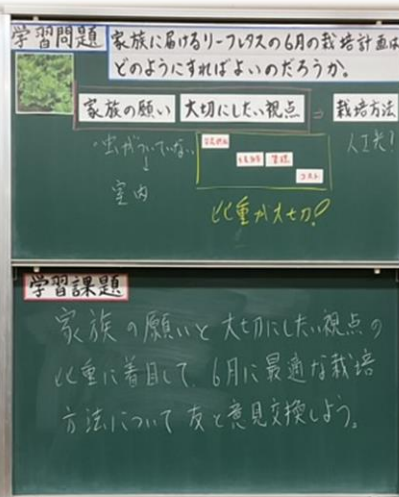
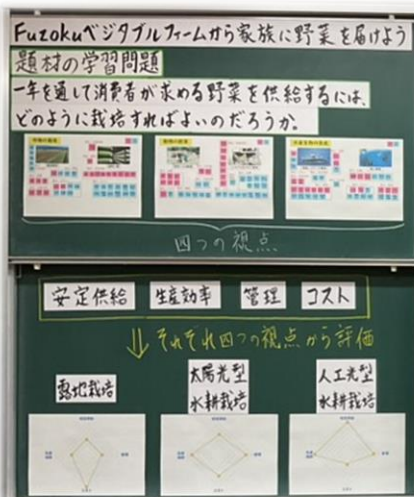
友との意見交換の様子



学習カード（ロイロノート）



全体追究の様子



本時の板書